防災アプリ実証実験に係る実施計画

１．目的

総務省ＩＣＴ街づくり推進事業「松山健康・観光まちづくり　スマイル松山プロジェクト」で、生活に安らぎのあるまちづくりを推進するため、防災・減災を目的としたスマートフォン用のアプリを公開し、このアプリの災害発生時の初動対応等の有効性を検証する実証実験を行う。

２．実施日時

平成 25 年 12 月 1 日（日）午前 8 時 30 分～午前 11 時 30 分

（実働避難開始　午前 9 時 30 分、メールアンケート午後予定）

３．実証実験概要

（１）実動避難

・実施地区　　三津浜、宮前、和気、市内（番町・八坂・東雲）6 地区

【１】調査方法

① GPS による行動履歴取得

② 現地でのヒアリング（約 100 名）

③ メールアンケート（5 段階スケール評価）

【２】調査事項

① 避難経路は最適であったか

② 避難に要した時間は最速であったか

③ 適切な避難先であったか

④ アプリの機能や操作方法、改善点　など

（２）防災アプリ利用者（実動避難なし）

【１】調査方法

① メールアンケート（5 段階スケール評価）

【２】調査事項

① アプリの機能や操作方法、改善点　など

４．実施方法

（１）モニターのグループ分け、配置

防災アプリを検証するうえで、土地勘が有る者、無い者、アプリを利用する者、しない者の４つのグループに分け、その行動履歴を取得する。

グループ	土地勘有無	アプリ使用可否	配置場所
A	○	○	自宅
B	○	×	自宅
C	×	○	路上等
D	×	×	路上等

（２）実働避難詳細

9 時 30 分、市災害対策本部からモニターへの地震発生の通知で実証実験開始とする。その 3 分後、大津波警報の通知を行い、モニターは近隣の集合場所や一時避難場所等の安全だと思う場所へ実働避難を開始する。安全な場所へ避難ができたと思われる場合は、安否確認メールを送信する。

その後、市から、再度、アプリにより標高を確認するなど、より安全な場所への避難を促す。モニターは、必要があればより安全な避難所等へ避難を行う。安全な場所へ避難ができたと思われる場合は、再度、安否確認メールを送信する。

10 時 25 分に実働避難終了の通知を行う。各地区ごとに集合場所を通知し、集合して来た者からヒアリングを行い、順次、解散。ヒアリングがすべて終了した時点で終了とする。

タイムスケジュール

① 9:30 実証実験開始（市災害対策本部から地震発生の災害通知）
② 9:33 大津波警報発令に伴う避難指示
③ 9:55 より安全な避難場所等への避難指示
④ 10:25 実働避難終了の通知・集合場所の通知
⑤ 10:30～ヒアリング開始
⑥ 11:30 ヒアリング終了の通知
⑦ 12:00 実証実験終了

５．防災アプリの主な機能

・災害通知 （市からの緊急情報を受信する機能）
・地図情報 （避難所等、標高、危険箇所等の情報取得）
・現在地（安否通知）メール （家族等へ現在地をお知らせする機能）

６．想定

平成 25 年 12 月 1 日 9 時 30 分 南海トラフを震源としたマグニチュード 9.0（市内最大震度 7）の地震が発生。大きな揺れにより、市内各地で家屋の倒壊や道路の損壊等で多くの人的・物的被害が発生するとともに、9 時 33 分に瀬戸内沿岸部に大津波警報が発表される。（松山市最大津波高 3.9m）それに伴い、市は災害対策本部を設置するとともに、防災アプリを利用し、市民に災害通知を行う。